

情報科学上級セミナーII

ISC334 — Senior Seminar in Information Science II

2026 年度 秋学期 / 火曜 1-2 限 / I-212

太田 啓路 (ohtak@icu.ac.jp)

この授業でやること

- 3D・VR・AR などの**先端映像メディア**を使ったコンテンツ開発・評価実験に必要な素養を身につける
- **各自がテーマを決め、持ち回りで「先生」になって 1 回分の授業をする**
- 流れ
 - i. テーマの決定
 - ii. 関連文献・関連記事の収集とまとめ
 - iii. コンテンツ制作や実験
 - iv. 考察・議論

評価

項目	割合
各回のコメントシート・持ち寄り報告	50%
自分のテーマに関するプレゼンテーション	50%

- 授業時間外学習の目安: 週 300 分
- 毎回、次回までの課題を決めて進捗をレビューする
- 提出・連絡は Moodle

日程（火 8:45–11:25）

回	日付	内容
1	9/8	休講
2	9/15	ガイダンス・テーマ相談・発表順決め
3	9/22 ※祝日実施	発表
4	9/29	発表
5	10/6	発表
—	10/13	ICU 祭・休講
6	10/20	発表
7	10/27	発表
8	11/3 ※祝日実施	発表
9	11/10	振り返り・総括・補足

発表できる日 6 回・受講 8 名 → **基本 1 日 1 名**、2 名の日を 2 回

1 回の流れ（モデルケース・160 分）

時間	内容	担当
40～50 分	前回の振り返り : 各自が前回テーマについて見つけた論文・記事を持ち寄って報告（1 人 3～5 分） → 前回の発表者が「宿題」に回答	全員 / 前回発表者
30 分	発表 : テーマの背景・関連文献・関連記事のまとめ	発表者
40 分	ワークショップ : 聞き手に体験・制作・実験させる	発表者
30 分	質疑応答 : 全員がフィードバック	全員

- 質疑で答えられなかった問いは**宿題**にして、**次回の授業で回答**する
- 2 名の日は、発表 25 分＋ワークショップ 25 分＋質疑 20 分ずつ
- 最終回 11/10 は発表なし: 全員で**振り返り・総括**、太田から**補足**
- 資料は**前日までに Moodle へ**提出（PDF または URL）

質疑応答と「持ち寄り」

1. 発表を聞きながら、気になった点・疑問をメモ
2. **質疑応答（30 分）**：全員が発表者にフィードバック（口頭 + Moodle のコメントシート）
3. 発表者は**その場で応答**。答えられないものは**宿題**に
4. **次回までに全員が持ち寄る**：前回のテーマについて論文・関連記事・参考文献を見つけ、次回冒頭で報告（1 人 3～5 分）
5. 前回の発表者は、宿題への回答を次回冒頭で発表
6. 持ち寄り報告とコメントシートは評価（50%）の対象

発表の構成テンプレート（発表 30 分）

1. テーマと「なぜ面白いか」（3 分）
2. 基礎知識 — 聞き手が知らない前提を教える（10 分）
3. **関連文献・関連記事 10 本以上**のまとめ（12 分）
4. まだ分かっていないこと・自分がやりたいこと（3 分）
5. 議論したい問い 2～3 個（2 分）

ワークショップ（40 分）の例：ツールを触らせる、簡単な実験に参加させる、短い制作をさせる、デモを体験させて評価を書かせる

文献の探し方

- [Google Scholar](#) — まず広く。被引用数と「引用元」で辿る
- [ACM Digital Library](#) / [IEEE Xplore](#)
— VR・HCI・グラフィックス (CHI, UIST, IEEE VR, SIGGRAPH)
- [CiNii Research](#) / [J-STAGE](#)
— 日本語文献 (VR 学会論文誌、情報処理学会)
- [arXiv](#) — 最新だが査読前。必ず出典を明記
- [ICU 図書館](#) — 電子ジャーナルは学内ネットワーク（または VPN）から

AI での調べ方

- [Semantic Scholar / Connected Papers](#)
— 論文の関連図・引用関係を AI で可視化
- [Elicit / Consensus](#)
— 質問文で論文を検索し、要点を表にまとめる
- [Perplexity](#) — 出典付きの Web 検索。まず全体像をつかむ
- ChatGPT / Claude / Gemini の [Deep Research](#) — 調査レポートの下書きに
- [NotebookLM](#) — 集めた PDF を読み込ませて要約・質問
- **注意:** AI が挙げた文献は**実在するか必ず確認**（DOI・タイトルで検索）。
本文を読まずに引用しない。使った AI と用途を資料の最後に書く

引用と資料の作法

- 出典は **著者・年・題名・掲載誌（会議）・URL/DOI** を書く
- 図や動画を借りるときは出典を図の直下に
- 生成 AI を使ったら、どこに使ったかを最後に 1 行書く
- 発表資料は他の受講生も見るので、**人物写真・個人情報**は載せない

テーマの例

- VR の移動・空間知覚（並進ゲイン、リダイレクテッドウォーキング）
- AR / MR を使ったゲーム・脱出ゲーム・観光コンテンツ
- 3D ガウシアンスプラッティング、フォトグラメトリ
- GPU 性能・ベンチマークの予測
- 3D プリンタと新しい素材（メタマテリアル）
- 音楽・映像の可視化、インタラクティブアート
- 生成 AI と映像制作

今日決めること

1. 自己紹介＋興味のあるテーマ（1 人 3 分）
2. 発表の希望日（○△×）を記入 → スプレッドシート「希望調査」
3. 発表順を確定 → 同シート「発表枠」

次回（9/22）までの課題

- **全員**: テーマを 1 行で確定し、関連文献・関連記事を **10 本以上** リストにする
→ Moodle に提出
- **9/22 の発表者**: 発表 30 分＋ワークショップ 40 分の資料を **9/21 まで** に Moodle へ
- 9/22 以降は毎回、**前回テーマの論文・記事を 1 本以上持ち寄って報告**
- 困ったら早めに相談（メール・授業後）